

第48期 報告書

平成26年4月1日～平成27年3月31日



浄土山から見た薬師岳

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

平成26年度の事業概況についてご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、消費税増税の影響による消費の減退が長期化したものの、継続的な経済対策や金融政策を背景に、雇用や所得環境および設備投資に改善がみられる等、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。

観光業界におきましては、国内旅行は減少傾向となりましたが、円安進行による割安感や査証緩和等が追い風となり、訪日旅客数が1341万人と過去最高を記録しました。その一方で、貸切バスや宿泊施設の不足が顕著となる等、受け入れ態勢の整備が課題となりました。

このような中、当期は、立山黒部アルペンルートの営業再開に合わせ、4月10日に弥陀ヶ原ホテルが、そして4月16日にホテル立山が営業を再開し、弥陀ヶ原ホテルは11月4日まで、ホテル立山は11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、ホテル立山と弥陀ヶ原ホテルでは、「雪の大谷」人気に支えられ、6月までは好調に推移しましたが、7月以降は、度重なる台風の上陸や日本各地を襲った集中豪雨災害の影響により、予約取消が多く発生し、特に単価の高い時期に重なったことで、宿泊人員の減少に比べ減収幅が大きくなりました。

その結果、ホテル立山は、宿泊人員が33,303人（対前年99%）となり、宿泊収入は対前年96%、食堂収入は対前年100%、売店収入は対前年97%、収入合計では対前年97%となりました。

また、弥陀ヶ原ホテルは、宿泊人員が15,633人（対前年98%）となり、宿泊収入は対前年95%、食堂収入は対前年95%、売店収入は対前年97%、収入合計では対前年95%となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、7月以降、全国的な天候不順の影響を受け、また宇奈月温泉全体の減少傾向のなかで、シーズンを通じて低調な動きとなりました。

これにより、宿泊人員は24,147人（対前年90%）となり、宿泊収入は対前年91%、売店等を加えた収入合計では、対前年89%となりました。

この結果、当期の売上高は、ホテル立山収入6億97百万円（対前年97%）、弥陀ヶ原ホテル収入3億35百万円（対前年95%）、宇奈月国際ホテル収入4億円（対前年89%）、食堂飲食及び物品販売収入10億12百万円（対前年98%）となり、これにビル賃貸収入1億76百万円（対前年100%）を加えた売上高合計は26億22百万円（対前年96%）となりました。さらに、営業外収益10百万円を加えた収益合計は26億32百万円（対前年96%）となった次第であります。

次に営業費につきましては、経営全般にわたる効率化に努めました結果、営業外費用を加えた費用合計は26億88百万円（対前年99%）となりました。

以上により、当期の経常損失は56百万円となり、さらに特別損益、法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減した当期純損失35百万円を計上することとなりました。

ホテル立山宿泊営業成績表（平成26年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	229	100
宿 泊 人 員	33,303	99
一日平均宿泊者数	146	99
営 業 収 入	697,024	97
宿 泊 収 入	694,293	96
雑 収 入	2,730	112
一日平均収入	3,043	97
客 室 数	85	100
延 使 用 客 室 数	14,658	99
客 室 回 転 率	76	99
宿 泊 定 員	265	100
宿 泊 効 率	55	99

（備考）営業期間(当期)：平成26年4月16日～平成26年11月30日(宿泊日数228日)

営業期間(前期)：平成25年4月16日～平成25年11月30日(宿泊日数228日)

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（平成26年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	229	100
室 堂 到 達 人 員	733,263	98
営 業 収 入	1,012,923	98
食 堂 収 入	347,409	100
喫 茶 収 入	109,497	99
売 店 収 入	548,076	97
雑 収 入	7,940	105
一日平均収入	4,423	98
営業収入／室堂到達人員	1,381	100

（備考）営業期間(当期)：平成26年4月16日～平成26年11月30日

営業期間(前期)：平成25年4月16日～平成25年11月30日

弥陀ヶ原ホテル営業成績表（平成26年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	209	99
宿 泊 人 員	15,633	98
一日平均宿泊者数	75	99
営 業 収 入	335,971	95
宿 泊 収 入	271,783	95
雑 収 入	432	57
食 堂 収 入	35,181	95
売 店 収 入	28,574	97
一日平均収入	1,607	96
客 室 数	52	100
延 使 用 客 室 数	7,007	100
客 室 回 転 率	65	101
宿 泊 定 員	176	100
宿 泊 効 率	43	99

（備考）営業期間(当期)：平成26年4月10日～平成26年11月4日(宿泊日数208日)

営業期間(前期)：平成25年4月10日～平成25年11月6日(宿泊日数210日)

宇奈月国際ホテル営業成績表（平成26年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	365	100
宿 泊 人 員	24,147	90
一日平均宿泊者数	66	89
営 業 収 入	400,285	89
宿 泊 収 入	323,198	91
追加飲食収入	26,281	85
施設利用収入	6,178	80
日 帰 り 収 入	11,956	97
売 店 収 入	29,009	82
雑 収 入	3,660	88
一 日 平 均 収 入	1,096	89
客 室 数	64	100
延 使 用 客 室 数	9,899	91
客 室 回 転 率	42	91
宿 泊 定 員	304	100
宿 泊 効 率	22	90

（備考）営業期間(当期)：平成26年4月1日～平成27年3月31日

営業期間(前期)：平成25年4月1日～平成26年3月31日

財産および損益の状況の推移

区 分	第 4 5 期 (平成23年度)	第 4 6 期 (平成24年度)	第 4 7 期 (平成25年度)	第 4 8 期(当期) (平成26年度)
売 上 高 (千円)	2,368,838	2,559,870	2,732,003	2,622,243
当期純利益(損失) (千円)	△264,443	11,425	14,355	△35,052
1株当たり当期純利益(損失)	△293円82銭	12円69銭	15円95銭	△38円95銭
総 資 産 (千円)	1,662,328	1,590,851	1,671,313	1,876,476

平成27年度の取り組み

観光業界では、価格競争と観光地間競争により、引き続き厳しい経営環境が予想されます。その中で、効率的な事業運営と収益の確保に努め、経営基盤の安定化をはかってまいります。

1 営業施策

去る3月14日、待望の北陸新幹線延伸が実現し、東京～富山間が最短2時間8分で結ばれました。さらに、10月からはJRグループ6社による「北陸デスティネーションキャンペーン」が開催される等、今年度は例年になく北陸への熱い視線が寄せられています。これを大きな好機と捉え、積極的な誘客促進とブランド力強化に努めてまいります。

近年、インターネットによる予約が益々重要性を増している状況を鑑み、自社インターネットプランの販売強化に努めてまいります。前年度から始めました宿泊と輸送のセットプランの拡充等、多様化する旅客ニーズに合わせた商品を造成し、きめ細やかな情報発信を継続的に進め、安定した顧客の獲得に結びつけてまいります。

これまでも好評をいただいております「雪の大谷散策」や「星空観察会」などのイベント・アクティビティーにつきましても、今年度は新たにホテル立山において、夜の室堂散策「ムーンライト立山」を実施する等、引き続きホテル三館それぞれの特徴を生かしながら企画の充実に努めてまいります。

また、今年度から立山高原バスに導入される『E～SORA「立山パノラマバス」』を利用する高付加価値商品の造成や、ホテル全館貸切企画の増販、さらに、レストランにおいては、団体オプションメニューの充実等の営業施策により、収益確保に繋げてまいりたいと存じます。

お越しいただいたお客様には、基本的な接遇の徹底と、各館の特徴を踏まえたサービスの提供を通じて、顧客満足度の向上を図り、リピーターの確保に努めてまいります。

2 宿泊・食品の安全確保と自然保護

お客様に安心、信頼してご利用いただけるよう、施設や食品の安全には、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、そして食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

また、環境に配慮した施設設備の維持更新、ごみ処理対策の徹底等、引き続き、立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

これからも、佐伯初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、積極的な誘客促進と、安全かつ満足度の高い受け入れ態勢の構築に全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(平成27年3月31日現在)

(単位: 百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流動資産	623	流動負債	226
現金及び預金	516	支払手形	27
売掛金	9	買掛金	15
未収金	8	短期借入金	20
未収法人税等	2	未払金	70
商 品	1	未払費用	7
貯 蔵 品	48	未払法人税等	3
前払金	6	未払消費税等	40
前払費用	0	前受金	2
繰延税金資産	28	預り金	3
その他	0	賞与引当金	36
固定資産	1,252	固定負債	560
有形固定資産	996	長期借入金	80
建物	509	退職給付引当金	473
建物附属設備	194	環境対策引当金	4
構築物	90	長期未払金	2
機械及び装置	17	負債合計	786
車両及び運搬具	8	(純資産の部)	
器具及び備品	57	株主資本	1,095
土地	119	資 本 金	900
無形固定資産	12	利益剰余金	195
ソフトウェア	11	その他利益剰余金	195
電話加入権	1	繰越利益剰余金	195
投資その他の資産	243	評価・換算差額等	△ 6
投資有価証券	171	その他有価証券評価差額金	△ 6
関係会社株式	35	純資産合計	1,089
繰延税金資産	5		
その他	31	負債・純資産合計	1,876
資産合計	1,876		

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

損益計算書の要旨

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位: 百万円)

科 目	金 額
売上高	2,622
売上原価	725
売上総利益	1,896
販売費及び一般管理費	1,962
営業損失	66
営業外収益	10
営業外費用	0
経常損失	56
特別利益	25
特別損失	17
税引前当期純損失	48
法人税、住民税及び事業税	1
法人税等調整額	△13
当期純損失	35

株主資本等変動計算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位: 百万円)

	株 主 資 本					
	資本金	利益剰余金		株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等	純資産 合 計
		そ の 他 利益剰余金	利益剰余金 合 計		そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	
当 期 首 残 高	900	230	230	1,130	△50	1,079
当 期 変 動 額						
当 期 純 利 益		△35	△35	△35		△35
株主資本以外 の項目の当期 変動額（純額）					44	44
当期変動額合計	-	△35	△35	△35	44	9
当 期 末 残 高	900	195	195	1,095	△6	1,089

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員

(平成27年 6月26日現在)

●設立年月日
昭和42年12月24日

●資本金
9億円

●発行済株式総数
900,000株

●株主数
2名 立山黒部貫光株式会社
富山地方鉄道株式会社

役員

代表取締役社長	佐伯 博
専務取締役	佐川 栄
常務取締役	永崎泰雄
常務取締役	新森雅夫
取締役	桑名博勝
取締役	中川 修
取締役	石野一美
取締役	見角 要
取締役	高江 均
監査役	高平 亮
監査役	中田邦彦
経営企画室長	
総務部長	
経理部長	
ホテル営業部長	
技術環境部長	

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併 (存続会社 立山黒部貫光株式会社)
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託

ホテル3館のご案内

立山黒部アルペンルート



ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<http://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>



弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峯寺弥陀ヶ原

☎ (076) 442-2222 FAX (076) 442-2242

<http://midagahara.alpen-route.co.jp/>

宇 奈 月 温 泉



黒部峡谷宇奈月温泉 宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26

☎ (0765) 62-1236 FAX (0765) 62-1808

<http://unazukikokusai.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185